

ハイスタンダードなサービスで知られるホテル「ペニンシュラ・ニューヨーク」の最上階3フロアを贅沢に使ったスパ&ヘルスクラブ。赤い絨毯で覆われたロビーを抜け、艶光りする木製ドアのエレベーターで21階へ。ドアが開くとそこには、外界の雑踏から遮断されたトータル・リラクゼーションの世界が広がる。窓から惜しみなく流れ込む光と、かすかに香るアロマが、空間をさらにリッチに演出する。

最初のフロアは、各種スパ、ヘアスタジオやメイキャップ、ネイルサロンなどが備えられたヨーロッパアンスタイルのブライベートルクラブ「メランジュー・サロン」だ。経験豊かなマッサージ師によるフェイシャルスパやボディマッサージは定評があり、スパを取りあげるメディアでは、必ずといっていいほどのペニンシュラがトップに挙げられる。

フェイシャルスパといえば女性の十八番のように考えられているが、このゼネラルマネジャーのネールセン氏によれば「それはもう古い」ということになるらしい。ヨーロッパでは随分前から男性用のフェイシャルが大流行りで、その流れがアメリカにも伝わってきたという。事実、最近では、モデルや俳優など、顔を売りにするタイプのプロフェッションではない男性でも、定期的にフェイシャルスパに通う人の数がどんどん上昇している。このスパのメンバーも女性と男性の比率はほぼ同じ。男性のフェイシャルは基本的に女性向けとはマッサージの方法やフ

ォーカスするところが異なり、「女性に比べて油っぽい肌を持つ男性が多く、また鼻のところの毛穴も大きめなので、それを丁寧に取り除きます。男性の場合は特に目の回り、鼻の脇のマッサージに時間をかけますが、性別にかかわらず、人それぞれの肌は異なるので、各お客様の問題箇所や皮膚のタイプなどをよく理解して、トリートメントを行っています」と、マッサージ師のひとりには語っている。にきびや肌荒れなど気になる箇所のある人は週1回、これといった問題はなく、肌のメンテナンスのみの人はだいたい月1回の割合で通ってくる人が多いという。

また、日米を問わず、疲れた時はサウナにマッサージという人も多いだろう。このサウナでひと汗流し、次はフロアによるマッサージ。備え付けの白いローブに身を包み、雑誌片手にリラックスルームのソファに深々と身を沈めれば、仕事の疲れも一気に吹き飛んでしまうに違いない。外の光からは遮断されたこの部屋はライトも控えめ。部屋全体がシックなデザインで、静かな空間を邪魔するものは何もない。フルーツが入った冷水もちゃんと用意されており、至れり尽せりとほまさにこのことである。

【ペニンシュラホテル・スパ&ヘルスクラブ】—NY●USA

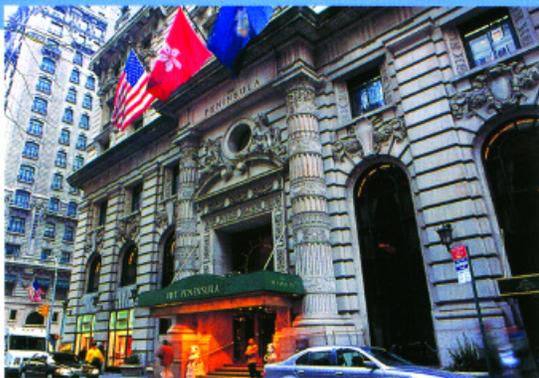
リラクゼーションの王様。 マッサージ、サウナからエクササイズまで、 すべてが揃う豪華スパ。

文◎吉田朱見 撮影◎Takeda (NY)

マンハッタンの摩天楼が見渡せるインドアプール。最上階にある。白でまとめられたデザインで、リッチ度、清潔度は満点以上。

癒しの場所
Care for the Green up





まったことではないが、トータルフィットネスを謳うこのペンシユラには、各種エクササイズ設備が備え付けられ、エアロビクスやヨガ、ジャズダンス、タップダンスなど、さまざまなクラスも毎日行われている。こうしたダンスクラスなどへの参加者は女性が多いようだが、エクササイズ設備を使ってトレーニングするのはやや男性の数が勝っている。朝出勤前にひと汗流す人と、仕事が終わった後にスポーツにいそしむ人との2タイプあり、朝夕がこのエクササイズルームの最も混み合う時間帯だ。お馴染みのランニングマシンから、筋肉を鍛える重量上げまで、必要なものはひと揃いすべて揃っている。真剣にボディビルに取り込む人から、日々健康のためにエクササイズを楽しむ人まで、この施設設備なら十分に満足できることだろう。エクササイズで「リラックス」というのも妙な響き



ペンシユラ・スパ&ヘルスクラブ
住所：700 Fifth Avenue at 55th Street, New York, NY 10019

TEL.212-956-2888 (ホテル)
800-262-9467 (ホールフリー)
212-903-3910 (スパ・インフォメーション)
212-247-9300 (メランジ・サロン)

FAX.212-903-3949

<http://fasttrack.peninsula.com/>

ヘルスクラブ営業時間：6:00～21:30 (月～金)
7:00～19:30 (土日)

スパ営業時間：8:30～21:00 (月～金)
8:45～18:00 (土日)

かもしれないが、ニューヨークのエクササイズ人口を見てみれば、これがストレス発散にひと役買っていることは間違いない。それに同じエクササイズでも、マンハッタン同士のスカイラインを見わたしながら流す汗は、またちよつと違った効用があるかもしれない。

最上階に上がると、全面ガラス張り日光をほしいままにする、インドアプールが青い水面を揺らしている。白を基調にしたタイルで清潔感が漂う。白い柱の間には緑の観葉植物が置かれ、ここならプール脇のチェアに腰を下ろすだけでも、豊かな気分になれるはずだ。プール横で、白い泡を立てているジャクジーは常時適温にセットされていて、肩のこりや疲れた筋肉をゆつくりほぐしてやるには最適だ。肩まですっぽり浸かると、ちよつとした温泉気分が味わえる。ミッドタウンのと真ん中に位置するとあって、窓から目に飛び込んできるのは、マンハッタンのビル群。騒々しそうな映像と音のない空間がなんともアンバランスで、それでいて他では味わえないリッチな気分を与えてくれる。夏場に

癒しの場所

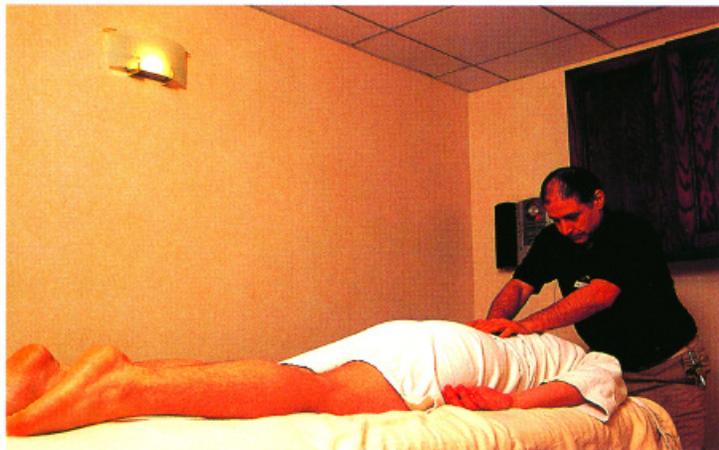
Places for the Screen up



人気が高まりつつある男性のフェイシャル・マッサージ。

サウナの後、年期の入ったプロから受けるマッサージは格別。

右/夏場には屋外のサンデッキも開放される。マンハッタンのビル群で日光浴が楽しめる。



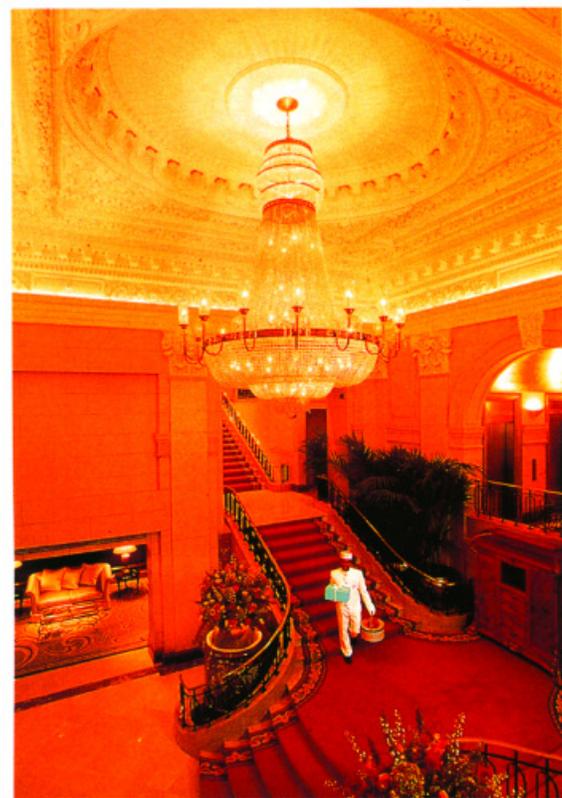


上/最新のハイテク機具を取り揃えた、エクササイズルーム。



左/洗練されたデザインでまとめられたリラックスマーム。フルーツ入りの冷水や雑誌が用意されていて、ソファは一度座ったら立ち上がりたくなるほどフカフカ。

下右/眺望が人気のペン・トップ・バー&ラウンジ。ひと泳ぎした後、摩天楼を見渡しながらランチというのもしゃれている。
下左/赤い絨毯とシャンデリアが豪華なベニンシユホテル・ロビー。



は、摩天楼を見下ろす屋上のサン・デッキが開放されていて、チェアに寝そべって、マンハッタンの中で日光浴が楽しめる。
フロア3階にわたるこの施設の全面積は約3万5000スクエア・フィート。約976坪といった

ほうが分かりやすいだろうか？マンハッタン内でこれだけのスペースをスパとヘルスクラブに費やすだけでも大変なものだが、ただ広だけでなく、各用途に合わせたその洗練されたデザインがいい。このスパ&ヘルスクラブは、ホテ

ル客にはもちろん開放されているが、他は会員のみ。現在は約80名のメンバーを抱えている。非の打ちどころのない施設のようにだが、少々難があるとするれば、会員費が高いことだろう。年間会員費が2600ドルで、その他に月々

200ドル必要だ。他のフィットネスセンターなどは、入会費が200〜400ドル、月々90〜170ドルなので、計算するまでもなく、ほかより高い。ただし、これだけゴージャスな気分が味わえるのなら、この会員費も見合った料

金といわねばなるまい。またここでは、フエイシャルスパやマッサージなどをパッケージにしたギフト券を発行している。恋人の誕生日や父の日、母の日などに、こんなリラクゼーションを贈ってみるのも粋ではないか。

TEXT: Aemmi YOSHIDA